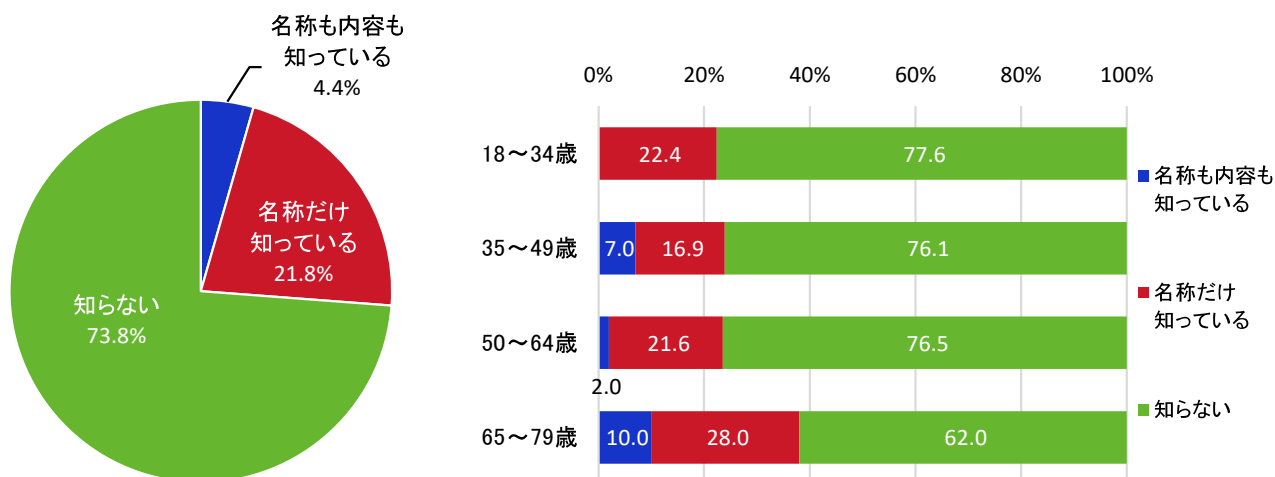


<市民マナー条例について>

※市民マナー条例は、浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例の通称であり、歩きタバコ、空き缶や吸い殻などのポイ捨て、落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例です。

問1 市民マナー条例の認知度 (n=248)



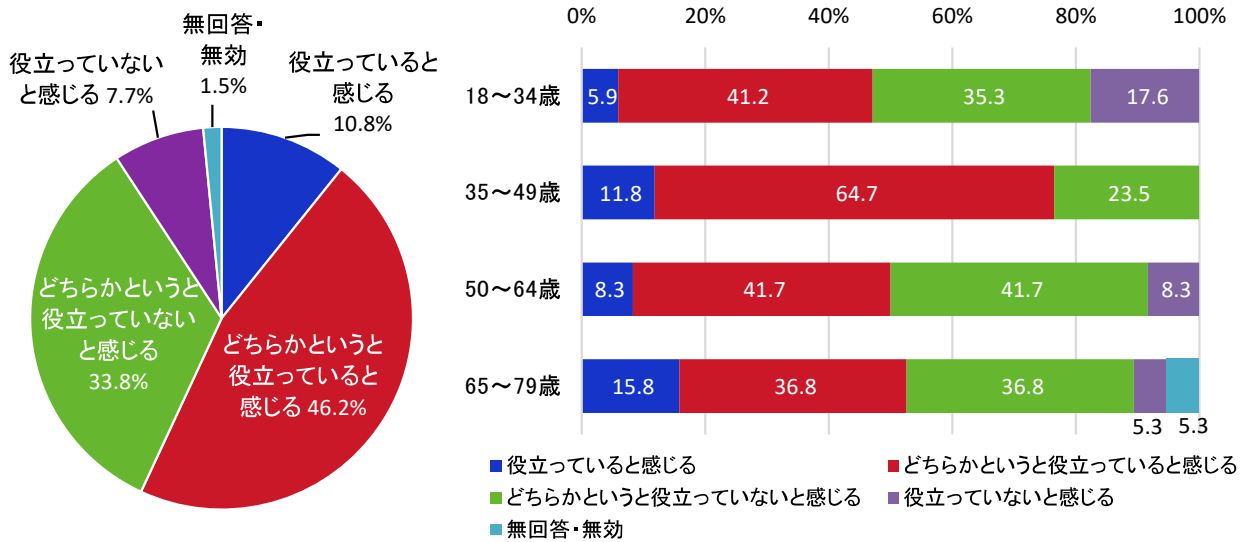
- 市民マナー条例の認知度については、全体では『知っている』（「名称も内容も知っている」と「名称だけ知っている」の合計）が26.2%、「知らない」が73.8%となっています。
- 世代別にみても、全世代において「知らない」が『知っている』を上回っています。

問2 市民マナー条例をどこで知ったか (n=65 複数回答) (問1で「名称も内容も知っている」「名称だけ知っている」と回答した方)

	全体	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
市公式ホームページ	40.0%	17.6	35.3	41.7	63.2
市公式SNS	7.7%	5.9	5.9	8.3	10.5
ポスター、看板	38.5%	17.6	47.1	33.3	52.6
えんてつビジョン・遠州鉄道各駅電光掲示板	13.8%	11.8	23.5	8.3	10.5
路面告知シート	36.9%	52.9	52.9	16.7	21.1
その他	7.7%	5.9	11.8	8.3	5.3

- 市民マナー条例をどこで知ったかについては、全体では「市公式ホームページ」が40.0%と最も多く、次いで「ポスター、看板」が38.5%となっています。
- 世代別にみると、18～34歳と35～49歳は「路面告知シート」が、50～64歳と65～79歳は「市公式ホームページ」が最も多くなっています。

■ 問3 市民マナー条例が生活環境の改善に役立っていると感じるか (n=65)
(問1で「名称も内容も知っている」「名称だけ知っている」と回答した方)



- 市民マナー条例が生活環境の改善に役立っていると感じるかについては、全体では『役立っている』(「役立っていると感じる」と「どちらかというと役立っていると感じる」の合計)が57.0%、『役立っていない』(「どちらかというと役立っていないと感じる」と「役立っていないと感じる」の合計)が41.5%となっています。
- 世代別にみると、35～49歳と65～79歳は『役立っている』が『役立っていない』を上回っているものの、18～34歳は『役立っていない』が『役立っている』を上回っています(50～64歳は『役立っている』と『役立っていない』が同率)。

■ 問4 この1年間で、市民マナーが悪いと感じたことがある行為 (n=248 複数回答)

	全体	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
歩きたばこ	24.2%	18.4	31.0	31.4	16.0
空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨て	46.8%	43.4	43.7	41.2	62.0
身体障害者用駐車場の不適切な利用	25.8%	13.2	28.2	31.4	36.0
飼い犬・ねこのふんの放置	33.1%	21.1	25.4	39.2	56.0
落書き	23.8%	23.7	22.5	21.6	28.0
ない	15.7%	21.1	16.9	11.8	10.0
その他	9.7%	14.5	9.9	7.8	4.0
無回答・無効	0.4%	1.3	-	-	-

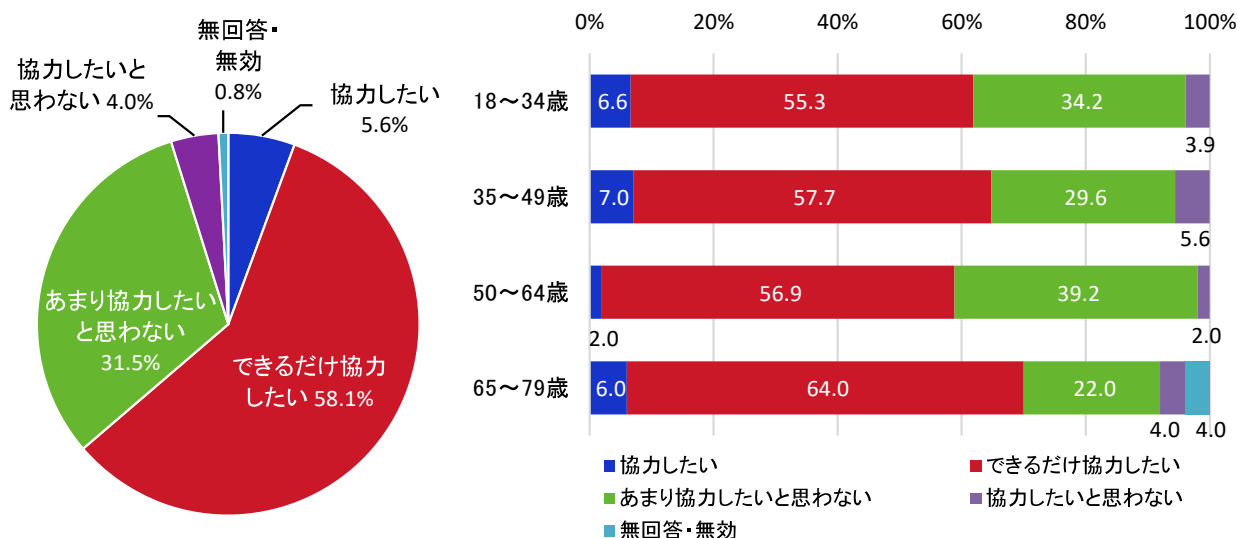
- この1年間で、市民マナーが悪いと感じたことがある行為については、全体では「空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨て」が46.8%と最も多くなっています。
- 世代別にみても、全世代において「空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨て」が最も多くなっています。

■ 問5 どこでその行為を見かけることが多いか (n=135 複数回答)
(問1で「歩きタバコ」「空き缶やたばこの吸い殻などのポイ捨て」と回答した方)

	全体	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
浜松駅周辺	34.1%	52.6	31.7	29.2	18.8
有楽街などの繁華街周辺	43.7%	63.2	48.8	37.5	18.8
商業施設の敷地内	11.1%	7.9	9.8	16.7	12.5
公園	37.8%	31.6	41.5	41.7	37.5
住宅地	42.2%	21.1	51.2	45.8	53.1
その他	20.7%	13.2	17.1	16.7	37.5

- どこでその行為を見かけることが多いかについては、全体では「有楽街などの繁華街周辺」が43.7%と最も多く、次いで「住宅地」が42.2%となっています。
- 世代別にみると、18～34歳は「有楽街などの繁華街周辺」が、35～49歳と50～64歳と65～79歳は「住宅地」が最も多くなっています。

■ 問6 市民参加型の啓発活動(市民協働によるごみ拾い)などの快適な環境づくりに積極的に協力したいか (n=248)



- 市民参加型の啓発活動などの快適な環境づくりに積極的に協力したいかについては、全体では『協力したい』(「協力したい」と「できるだけ協力したい」の合計)が63.7%、『協力したいと思わない』(「あまり協力したいと思わない」と「協力したいと思わない」の合計)が35.5%となっています。
- 世代別にみると、『協力したい』は65～79歳が70.0%と最も多く、35～49歳は64.7%、18～34歳は61.9%、50～64歳は58.9%となっています。

問7 市民マナー条例の啓発活動で、効果的だと思う方法

(n=248 複数回答)

	全体	18～34歳	35～49歳	50～64歳	65～79歳
SNS・インターネットでの広告	56.5%	60.5	66.2	52.9	40.0
駅や公共施設でのポスター掲示	53.6%	51.3	59.2	49.0	54.0
テレビ・ラジオでの放送	33.5%	21.1	35.2	49.0	34.0
町内会や自治会を通じた啓発	48.4%	32.9	45.1	56.9	68.0
学校での啓発	59.7%	50.0	64.8	66.7	60.0
その他	6.0%	5.3	4.2	5.9	10.0

- 市民マナー条例の啓発活動で、効果的だと思う方法については、全体では「学校での啓発」が59.7%と最も多く、次いで「SNS・インターネットでの広告」が56.5%となっています。
- 世代別にみると、18～34歳と35～49歳は「SNS・インターネットでの広告」が、50～64歳は「学校での啓発」が、65～79歳は「町内会や自治会を通じた啓発」が最も多くなっています。